

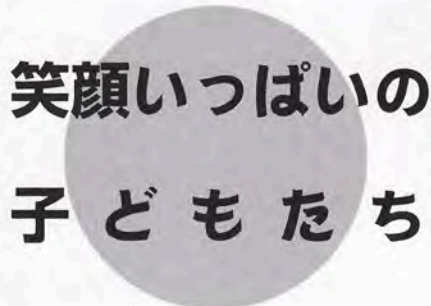
# 少連協ニュース

発行所 / 足立区少年団体連合協議会

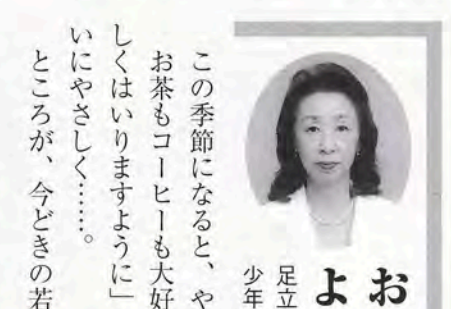
<http://www.a-shorenkyo.jp>

〒120-8510 東京都足立区中央本町 1-17-1 足立区役所  
青少年課 青少年事業係 TEL 03-3880-5275

発行人 野辺 陽子  
編集 調査広報部  
大林 市川 田中 小野田  
高澤 南部 川下 山岸  
高橋 山川 小林



## 笑顔いっぱいの子どもたち



おいしくはいります  
ように……

足立区  
少年団体連合協議会会長 野辺 陽子

この季節になると、やはり温かい飲み物が恋しくなる。  
お茶もコーヒーも大好きだが、それを淹れる時必ず思う「おいしくはいりますように」と。時間のある時には、たぶん、ていねいにやさしく……。

ところが、今どきの若者はお茶といえばペットボトルのお茶を指すのだそう。急須なんて「なに？それ」といったところだろう。

忙しい日常では、とり敢えず、不本意ながら、体裁が整えばいいかという感じで淹れてしまうのだ。しかし、「おいしくはいりますように」と念じた時とそうでなかった時には、心なしか一味ちがうような気がする。一体この違いは何なのだろう。千利休の言葉がふとよぎる。

- 茶は服のよきように点て
- 炭は湯の沸くように置き
- 花は野にあるように生け
- 夏は涼しく冬暖かに
- 刻限は早めに
- 降らずとも傘の用意
- 相客に心せよ

相手を思い、相手がカンファタブルに感じられるように、自然体で、心静かに接することの大切さを教えてくれている。ペットボトルのお茶もいいが、飲むならせめて、空ボトルは、リサイクルにお願いしたいところだ。



# 足立区少年団体連合協議会の総会が開催される

平成二十七年五月二十三日  
(土) 午後四時から足立区少年団体連合協議会の総会が、綾瀬の足立区勤労福祉会館(ブルミエ)第一洋室で開催されました。

鈴木(春)副会長の司会で始まり、開会のことば、下島会計による来賓紹介、野辺会長の挨拶と進み、議長に加藤副会長、書記に小野田書記が選出され、順次に議案が可決されました。



▲野辺会長の挨拶



▲網田俊二小学校長会長の挨拶



▲赤間信一青少年対策地区委員会会長連絡協議会会長の乾杯

今年度は、規約改正と役員改選があり、長年の懸案事項であった指導者クラブとジュニアリーダークラブを立ち上げ、育成部長が連絡・調整を担当することになりました。

### 新役員は、

|          |       |
|----------|-------|
| 会長       | 野辺 陽子 |
| 副会長・事務局長 | 加藤 俊次 |
| 副会長      | 山本 輝夫 |
| 副会長      | 鈴木 春男 |
| 副会長      | 大林 英夫 |
| 会計       | 日高佐和子 |
| 会計       | 鈴木 健治 |
| 会計       | 下島 泰則 |

|        |        |
|--------|--------|
| 書記     | 小野田みよ子 |
| 書記     | 林 俊二   |
| 総務部長   | 元井 一壽  |
| 調査広報部長 | 市川 元一  |
| 事業研修部長 | 清水 康弘  |
| 育成部長   | 四宮 淳司  |
| 会計監事   | 山崎 金壽  |
| 会計監事   | 岩澤 明美  |

なお、常任理事の退任・新任は、次の通りです。

### 【退任常任理事】

|        |       |
|--------|-------|
| 鹿浜地少協  | 林 俊二  |
| 第十三地少協 | 小浜 幸  |
| 栗島地少協  | 松田 一穂 |

### 【新任常任理事】

|        |       |
|--------|-------|
| 鹿浜地少協  | 小林 英之 |
| 第十三地少協 | 佐藤 文孝 |
| 栗島地少協  | 大庫 利之 |

退任されました役員、常任理事の方々には、これまでのご支援、ご協力に御礼申し上げますとともに、これからは青少年健全育成に對し地域はもとより、少連協活動に変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

閉会の言葉を大林副会長が行い総会は、滞りなく終了しました。



▲総会風景



▲恒例の「青い山脈」の大合唱

その後、午後五時三十分より第一ホールに移動して懇親会が開催されました。

元井総務部長の司会、四宮育成部長の開会の辞、足立区歌「わがまち足立」斉唱、野辺会長挨拶と





▲足立区歌「わがまち足立」斉唱



▲区長代理 定野 司教育長のご挨拶

進み、ご来賓の足立区長代理、足立区教育委員会定野司教育長にご挨拶をいただき、ご来賓紹介、赤間信一足立区青少年対策地区委員会会長連絡協議会会長の乾杯で、一気に会場全体の雰囲気も和みました。各テーブルでは、いろいろな話で盛り上がっていました。

足立区立小学校校長会網田俊二会長の中締め、恒例の輪になって歌う「青い山脈」の大合唱、最後に山本副会長の閉会の辞で、楽しく終了しました。

## わくわく体験ツアー in 房総のむら

保塚地少協 辻村 宣明



三月一日(日)、天気予報によると午後からは雨、しかも所により強く降る等という予報もあり、屋外の見学・活動は少々不安でしたが、子ども達に日本の伝統的生活様式を見て体験する機会として、保塚地少協では「わくわく体験ツアー in 房総のむら」を企画して、四つの子ども会から十六人の子ども達と行ってきました。

ここは、江戸時代後期から、明治初期における房総の商家、武家屋敷、

農家などを当時の景観、環境を含めて再現するとともに、実演や来館者自らが体験することによって伝統的技術や生活様式を学ぶことができる施設です。風土記の丘資料館や、周囲の古墳群を合わせると、すべて見て体験するには一日ではとても足りないぐらいの規模の施設です。

足立区からわずか九〇分ほどで江戸時代にタイムスリップしたかのように、ちよんまげを結った侍、町人が歩いていそうな街並みと緑あふれる豊かな農村風景が広がる世界がありました。子ども達の瞳は、少しずつ降り出した雨に曇ることなく、初めての世界にキラキラと輝き始めていました。

千代紙ローソクづくりでは、おしやべりもせず、夢中になって千代紙を細かく、丁寧に切り抜き、それを自分の想像力を大いに発揮して自由自在に貼り付け、思い思いの風景をそこに描いていました。焙烙を使って炭火で燻る本格的ほうじ茶作りでは、慣れないながらも真剣に、お茶の葉が芳しい香りとかすかな煙を立てて燻されていく様子を見つめていました。中には一人で六回もほうじ



茶作りを体験した子どもも居たそうです。

普段は、TV・ビデオゲームなどの映像や金属・プラスチック製の玩具に遊びなれた子ども達、伝統的な技術や生活様式の体験にどんな反応を見せるのか? もしかしたら、やっぱりゲームのほうが楽しいと言いつつ出すのではないかとちょっと不安もありましたが、子ども達の好奇心は無限だと気付きました。私達大人が子ども達に様々な体験の機会を与えることで、彼らの可能性をより一層広げることに繋がっていくということを感じました。



# 第二十五回子ども育成者セミナー

子どもたちの自主性をいかにサポートするか  
—地域でジュニアリーダーを育てよう—

足立区少連協では、平成二十七年六月二十八日(日)、足立区役所庁舎ホールにおいて「第二十五回子ども育成者セミナー」を開催しました。参加者は一一一名で、子どもの自主性をいかにサポートするか、ジュニアリーダーの育て方などを話し合いました。

まず、清水康弘事業研修部長が開会のことばを述べ、主催者あいさつとして、野辺陽子少連協会長、また、寺島光大足立区青少年課長からお言葉がありました。

●ジュニアリーダーを育てるセミナーでは、村上長彦氏(足



立区教育委員会青少年課青少年教育担当係長)が講演されました。

村上氏は、①子どもの人間関係能力を高める豊かな人間関係、②そのために必要なジュニアリーダーの役割、③ジュニアリーダーをどう育てるか、④地少協単位でジュニアリーダーを育てる——などについてわかりやすく説明されました。また、足立区における子ども会の始まりと拡大、全国子ども会連合会の結成と子ども会理論の発展、今の子ども達の課題と子ども会ができること、ジュニアリーダーの育成と組織化、そして、最後にグループでの話し合いに向けての注意点を話されました。

たとえば、今の子ども達の課題としては、人間関係が貧困化(限られた家族関係、同時代のみでの友達関係、近所付き合いの減少)し、体験も不足し、テレビ・パソコン等の仮想環境の中だけで育っている、自分で考える力が不足しているなどの指摘がありました。さらに、ジュニアリーダーの育成についての重要性も、すべての地少



協に地域ジュニアリーダークラブがある未来をめざし、それが少連協の目標であると説明されました。

ジュニアリーダーの育成と組織化については、①自立した子ども会づくりが第一歩、②研修は行事ではなく、ジュニアリーダーを育成・発掘する場としてとらえる、③単位地少協では難しい取り組みを共同ですることが地少協の重要な役割、④少連協にジュニアリーダークラブを設立し、地域ジュニアリーダーの拡充を支える活動をする、⑤以前はA(小学四

年)、B・C(五・六年)コースになっていた。習い事などと同じ感覚で子どもたちがくるので地域が関係なくなり、遊び塾に変わっていった——などと実例を入れてくわしく説明されました。

グループでの話し合いに向けては、①子ども会の地域における存在意義を考える、②地少協で地域ジュニアリーダーを立上げているところの話を聞こう、③立上げの課題の整理、④取り組みのヒントをつかむ、——など。

●地域ジュニアクラブの実情

四宮淳司氏(足立区少年団連







合協議会育成部長)より自分の地域の現状についての講演がありました。蒲原地区では、新事業として「学校お泊り会・宿泊キャンプ」を立上げました。これは、「小学生の低学年は土曜の午後に集まりカレーを食べ、キャンプファイヤー後に帰宅、中学生は小学生の面倒を見て、宿泊します。肝だめしなどもあり、小・中学生とも大人気。昨年にはジュニアリーダー

グループ討議  
 一一名の参加者が十一のグループに分かれてグループ討議をしました。討議の内容は、①子ども会は地域の子どもの成長にどのように役立てることができるか、②地域ジュニアリーダークラブが活動している地少協の様子を聞く、③自分の地少協に地域ジュニアリーダークラブを立ち上げる上での

課題を考えよう——でした。各グループの代表は、①地域外の子どもが多いので、大きくならせと離れていく、②地区対などと一緒に行事を行い、生きる力を養う、③ジュニアリーダーの認識度が薄い、④子どもを集めるとき、校長はじめ一般教員も巻き込む気配りが必要、⑤校庭の人工芝、公園利用など防災などで制限があり大変、⑥サマーキャンプは小学生のみ、中学生は「パワーキッズに行けるよ」で増える、⑦子ども会に入りましょうのリーフレットは写真入りがよい、⑧幼稚園や保育園にリーフレットを配布したらどうか、⑨形から入るのではなく、ジュニアクラブを先に作った方がよい——などいろいろな発表をしました。



最後に山本輝夫少連協副会長が

「熱心なグループ討議はこれまでで一番よいものでした。問題解決は誰か一人熱い人がプランニングを投げかけると、すぐに仲間が集まります。こうした情報交換の場を今度は地域で生かし、皆さんの一層の活躍を期待します」と総評・まとめをしました。



計報

元少年団体連絡協議会副会長

加藤 俊次様 (71)

去る平成二十七年九月二十日、病氣療養中のところ薬石効なく、ご逝去されました。少連協のために大変ご尽力いただき、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



# ジュニアリーダー 宿泊キャンプ

## キャンプの思い出

田中 陽菜

今年も、ジュニアリーダーのキャンプに参加して、キャンプファイヤーや、かまどでの夕飯作り、御殿場縁日など、たくさん楽しい体験をすることができました。

なかでも、私が一番思い出になったのは、二日目のウォークラリーでした。班ごとにわかれ、地図を見ながら、目的地までたどり着かなければならなかったのですが、途中で道に迷ってしまい、歩いて



も歩いても、目印が見つからないので、だんだん暑さと疲れでイライラし、班の仲間どうしの雰囲気も、なんとなく悪くなっていきました。私は、このままでは駄目だと思い、近くを通った大人の人に道を聞いたら、とても親切に教えてくれたので、嬉しくて少し涙が出そうになりました。結局時間切れで私達の班は、目的地までたどり着けませんでした。とても悔しかったけれど、次回は、もっと班の仲間をよく話し合っ、疲れた時や困った時こそ協力して楽しくがんばりたいと思います。

「ワクワク遊び塾」キャンプを終えて 田中 順子

島根小学校から家へと向かう車の中、娘は友達二人と、キャンプ中の出来事を話し始めました。

次第に、一人一人の思い出が次々と溢れ出し、笑い声を交え、車内はさながら、キャンプの大報告会となりました。そして、その報告会は、帰宅後、娘が眠りに就くまで続きました。

私は、彼女達が興奮しながら話す様子を見て、このキャンプは、子ども達一人一人にとって、普段の生活の中では体験できない貴重な体験ができた、まさに「ワクワク遊び塾」だったと感じました。

今回、キャンプが行われた『国立中央青少年交流の家』は、私自身も学生時代、何回か研修をした思い出があり、特にウォークラリーは、夏の陽射しの下、自衛隊の



戦車を横目に見ながら、汗だくになって歩いた記憶が、娘と会話する中で、鮮やかに蘇り、まるで、二人で御殿場へワープしたような楽しいひと時を過ごしました。

最後に、このような素晴らしい経験をさせていただいたスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

## 平成27年度ジュニアリーダー 宿泊キャンプアンケート

集計結果(保護者)有効回答45名  
ジュニアリーダー宿泊キャンプ報告会(平成27年8月30日 足立区役所)

Q. キャンプ後のお子様の様子に何か変化はございましたか?

変化があった 24名  
変化がなかった 21名

- ・自分から進んで行動するようになった。
- ・早起きができるようになり、家の手伝いをしてくれるようになった。
- ・一人で食事をつくってくれた。
- ・物怖じせず、より積極的になった。
- ・兄弟にも優しく接するようになった。

Q. 次回もお子様を参加させたいと思いますか?



参加させたい 44名  
参加させたくない 1名

- Q. 参加させたい場合、何を学ばせたいか、またどのようなプログラムがあるといいですか？
- ・ 普段できない自然の中での経験、アウトドアの知識を学ばせたい。
  - ・ 星もきれいに見えたと思うので、天体観測ができればいい。
  - ・ 3泊4日にしていただきたい。
  - ・ 班で企画をするようなプログラムがあったらいい。
  - ・ 昔体験、伝承遊び

Q. その他、ご意見ご要望などござ

- いましてら、ご記入ください。
- ・ たくさんスタッフに見守られながら、とても楽しいキャンプを過ごすことができました。あとは本人が様々なシーンで生かしてくれることを願うばかりです。
  - ・ DVDを見て、キャンプの様子が良く分かった。
  - ・ DVD、写真がほしい。
  - ・ 昨年のプログラムよりもアクティブなものが多く、とてもいい経験になりました。
  - ・ スタッフの皆様、楽しい思い出を本当にありがとうございます。

### ジュニアリーダー研修会

#### ワクワクあそび塾

舎人地少協 小野田みよ子

「友だちを作る力をアップしよう」を大きなテーマとして、各地域で開催された今年度のジュニアリーダー研修会

第一回「新しい仲間と仲良くならう」

第二回「新しい仲間と協力して活動しよう」

第三回「みんなの前で発表したゲームを指導してみよう」

各回三時間、合計九時間の研修となりました。

めずらしく参加申し込みの出足が悪く気をもみましたが、最終的には四十六名で初回を迎えました。



例年に比べ二十人くらい少なかったのですが、ゲームを中心に楽しく怪我もなく終了することができました。終了者三十七名、皆勤

賞二十六名、講師はじめ、助手三名（大学生一名・高校生二名）最終日は皆、別れ難くも来年の再会を約束していました。

### 集計結果（参加者）

Q. プログラム内容で何が楽しかったですか？

①ウォークラリー（16名）

#### 理由

- ・ 道に迷ったけど、協力してゴールまで辿り着いたから
- ・ みんなで協力し合うことができたから
- ・ 班のメンバーとたくさん話すことができたから

②フィールドゲーム（15名）

#### 理由

- ・ 広場を走り回ることができたから
- ・ ゲームの内容がおもしろかったから
- ・ 違う班の子たちと遊べたから

③キャンプファイヤー（10名）

#### 理由

- ・ みんなで踊ったりして、楽しかったから



- ・ 円盤体操がおもしろかったから
- ・ みんなで歌を歌えたから
- ④宝さがし、夕食づくり

#### 理由

- ・ 班のメンバーで協力し合えたから
- ・ おいしくつくることができたから

Q. 今回歌ったキャンプソングで何が一番好きですか？

①君のなまえ（22名）

②キャンプのおまじない（12名）

③このキャンプで（6名）

④ボンジュールマダム（3名）

Q. 来年参加するとしたらどのようなことをやってみたいですか？

- ・ 肝試し ・ ナイトハイク
- ・ 水鉄砲 ・ どろけい
- ・ 流しそうめん ・ 大縄大会
- ・ マラソン大会
- ・ しっぽとり ・ 鬼ごっこ
- ・ 迷路あそび などなど



# 2015子ども サミット in あだち

平成二十七年七月十二日(日)  
足立区役所十三階会議室にて少連協五十周年記念事業の一環として、『2015子どもサミットinあだち』が開催されました。

少連協野辺会長、来賓に寺島青少年課課長、高山足立区議会議長を迎えて、山本副会長の司会で始まりました。

大林副会長の開会宣言、議長に足立区ジュニアリーダークラブ所属の井上穂南さん、副議長に扇地少協の今井海統さんが司会から指名され子どもたちの話し合いが始まりました。



参加者は、花畑地少協一名、第三地少協二名、新田地少協三名、第五地少協二名、第八地少協二名、第十一地少協二名、第四地少協一

名、蒲原地少協五名、鹿浜地少協二名、舎人地少協二名、東綾瀬地少協二名、議長、副議長を含めて二十六名で話し合いました。

議題は、『ゆたかさ』、『やさしさ』、『かがやき』について意見交換を行ない、最後に宣言書を読み上げて、宣言書を野辺会長に渡して終了しました。

### ★わたしたちの宣言

わたしたちは、足立区の子どものとして、学校や地域の活動に、積極的に参加します。

そこで学んだこと、経験したことを活かして、一生懸命頑張ります。

右、宣言する。平成二十七年七



月十二日2015子どもサミットinあだち参加者一同



### 編集後記

今年の全国学校給食甲子園に、足立区立第十一中学校が、女子栄養大学特別賞を受賞しました。足立区では子どもたちの食育に頑張っています。私たち少連協も、今年は五十周年に向けて、いっそう努力していきます。